



図書館を人と人がつながる場に

<基本情報> ●設立/2000年4月 ●所在地/始良郡湧水町米永411番地1(いきいきセンターくりの郷内)
●従業員数/計6人(くりの図書館常駐4人、兼務2人)
●お問合せ窓口/TEL:0995-74-1821 ●HP/ http://library-yusui.jp



湧水町くりの図書館

- おはなし会や原画展などイベントも多数開催
- 地元の歴史に関するものなど地域資料の収集整理も公共図書館の大切な役割



Interview

まつした
司書 **松下 あゆみさん**
そのだ
司書 **藺田 麻実さん**
インタビュー



BGMが流れる館内は利用しやすい雰囲気に

図書館で働くきっかけは？

(松下)小さい頃から図書に憧れ、司書の資格が取れる進学先を選びました。最初は福祉の仕事に就き、その後、湧水町の募集に応募して採用されました。
(藺田)同じく本が好きで、司書資格を取得するにあたり、くりの図書館で実習を行いました。宮崎市の図書館で2年働いたあと、くりの図書館に採用されました。



書架整理の様子

「仕事のやりがい」は？

(藺田)(松下)読み聞かせのイベント「おはなし会」は子どもたちのリアクションがダイレクトに伝わってくるので、喜んでくれたときはやっぱり嬉しいです。あとは絵本の作家さんをお招きして原画を展示する「原画展」を2年に1回行っていますが、作家さんと直接話す機会はなかなか無いですし、そういった経験ができたこと、また通常はなかなか都市部

まで行かなければ見られないような原画展を、地元で子どもたちに見てもらえる機会を提供できたことは達成感を感じました。

好きな業務は？

(松下)私は、地味ですが「書架整理」が好きです。貸出・返却の際に需要を把握して、より図書館を活用してもらえるようにする業務です。自分たちが居なくても棚を見て手に取れるように整理していきたいと思っています。
(藺田)レファレンス業務が好きです。利用される方が知りたいことを、どう調べたら良いか、どの資料を見れば良いかなどを考えてお伝えする業務です。どの地域にどの名字が多いか、など郷土資料でなければ分からないことを求められることもあり、レファレンスを受けてどんな資料を収集したらよいか考えることもあります。

鹿児島(始良・伊佐地域)で働く魅力は？

(松下)地元(熊本県多良木町)には町役場に図書コーナーがあるくらいで図書館はありませんでした。湧水町は人口規模にしては大きな図書館があり、恵まれていると思います。公共図書館は子どもから大人までいろんな世代の人に会えますし、図書館は歴史や文化、地元の良さを繋いでいく場所だと思います。
(藺田)かつて働いていた宮崎市立図書館と比べると、ここは利用者さんとの距離が近い

と感じます。誰かが知りたいことを、誰に尋ねればよいか顔が思い浮かぶし、人と人が図書館で繋がるという感覚があります。公共図書館はお子さんから年配の方までいらっしゃいますし、利用者さんの成長を見守ることができたり、昔から知っている方々が声をかけてくれたりするのは地元の良さだと思います。

高校生のみなさんへメッセージをお願いします。

(松下)将来を考える際は、絞りすぎないことが大切かな、と思います。好きなものがあったらひとつに限らず、いろんな世界を見た上で、いろんな人と関わって幅広い目線で将来を考えてみてほしいですね。私も福祉の仕事を経験しましたが、それも様々な人と接する今の仕事に生きています。
(藺田)たとえば「本に関わる仕事」というのも、図書館のほかにも書店、出版、装丁、流通などさまざまな仕事があります。いま好きなものだけでなくその周りにもものもぜひ見てみてください。



温泉などが入る複合施設に図書館が隣接している



やりたいことをできる仕事を自分でつくる

<基本情報> ●設立/1993年(湧水農場開設)、2014年法人化 ●所在地/始良郡湧水町木場2577
●従業員数/社員3人(湧水農場)、時期によりパート職員数人
●お問合せ窓口/TEL:099-802-6100 ●HP/ https://morikazo.com



そのやま農園

- 年間通じて途切れないように10品目以上をリレー方式で生産
- 店舗では有機野菜のほか、有機野菜を使ったお弁当・お惣菜の販売も



Interview

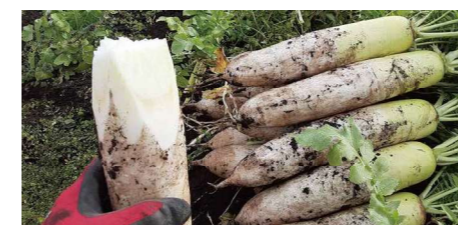
そのやま ひでくに
生産部長・**園山 秀国さん**
湧水農場
インタビュー



にんじんはそのやま農園の主力商品のひとつ

業務内容は？

湧水町の農場で有機栽培の野菜を生産しています。にんじん、じゃがいも、さつまいもの他、年間を通して10種類以上の生産品目があります。また、同じ会社で運営する始良市の店舗「森のかぞく」で、お弁当・お惣菜の販売も行っています。



有機農法で生産された新鮮な大根

これから取り組みたいことは？

今はSNSの発達で全国の生産者と繋がることができず、様々な情報を得られます。全く違うやり方をしているところからヒントをもらったり、自分なりに生かしたりしながら上達の喜びを感じられるのが楽しいですね。また、現在は卸業者さんを通じて店舗へ出している商品が多いのですが、これからは全国にうちのファンを作り、直接お客さんと繋がって売るといことも進めていきたいです。始良市の店舗ではお弁当・お惣菜と一緒にうちの野菜も販売していますが、地元に向けた販売につ

いてもまだまだ可能性があると考えています。

仕事上、大切にしていることは？

農業は、お金が先に出ていく構造になっています。規模に関わらず、まず土を作り、肥料や種をまいてから数カ月後にやっと野菜ができてお金が変わっていくので、先に投資できるお金を持っていないと回っていきません。多品目をリレーして生産し、常に売るのが手元にあるような状態を作れるように工夫しています。例えば、10月頃は収穫できるものが限られているのですが、今枝豆やマコモダケ(田んぼで採れるイネ科の野菜)の生産に取り組んでいて、これらは重要な生産品目になっていくと思っています。

鹿児島(始良・伊佐地域)で働く魅力は？

農業に関しては、1年を通じて仕事があるというところ。北海道や東北、長野などは夏が非常に忙しく、冬は仕事が限られるなど波があり、農業経営者の方も頭を悩ませていると聞いています。その点、鹿児島は夏の暑さは厳しいですが、いろんな品目をリレーして生産していくことで年間通じて農業ができるのはよいですね。

求める人材像は？

農業は、原材料費の問題や生産管理など頭を

使う仕事でもあります。自分で農業経営をやりたいという場合、いろんなものに好奇心を持って自分から取り組んでいく人は、そういう点で向いていると思います。一方で、にんじんやじゃがいもなど重量野菜も多く、まだまだ人の手をかけて運搬などしなければならない場面は多いです。黙々と作業したい人にはそういう役割もあって、適材適所で働ける仕事です。

高校生のみなさんへメッセージをお願いします。

ものがあふれる時代ですが、もっと進化できる仕事はたくさんあるので、広い視野をもって興味を広げてほしいですね。協調性も大切ですが、漫然と周りに合わせてそれに慣れてしまうよりは、疑問に思ったことを素直に探求するとか、流されないようにするほうがよい。人と違う「変な人」になることを恐れずに、気に入ったことを見つけたらどんどん調べて進んでいけばよいと思います。



湧水農場で働く職員のみなさん